



心を開いて相手を受け入れる気持ち

校長 村元 孝憲

8月13日に降り続いた雨は、「令和8年8月千葉豪雨」という名称と共に、甚大な被害をもたらしました。ちょうどお盆の時期と重なりましたので、自宅以外の場所で降り続く雨を心配されていた方もいたことでしょう。道路の冠水をはじめ、鉄道の運休、床下、床上浸水と、日を追うごとに被害の大きさを痛感いたします。本校におきましては、校舎内の一部雨漏りはあったものの、学校生活に支障をきたす被害がなかったことは幸いです。保護者の皆様におかれましては今一度、「気象警報等発表時の登校について」（HP掲載）をご確認ください。

さて、朝の登校で子どもたちから「おはようございます」の挨拶が聞こえてくるとさわやかな気持ちになります。しかし、4月と比べて挨拶ができなくなる子や、挨拶が返ってこない子もいます。私たちの社会において「挨拶」は大切なものと教えられてきていますが、そもそも「挨拶」はどうして大切なのでしょうか。お笑いタレントであり、映画「えんとつ町のプペル」の原作者でもある西野亮廣さんは、「挨拶」について次のように述べています。

今回はこの「挨拶」の重要性をお伝えしたいのですが、「挨拶をするのが人として大切なんだ!」とか「挨拶するのが大人の常識だろう!」みたいな説教をしたいわけではありません。「挨拶」のメリットをきちんと分解してみたいと思います。

ボクは軍隊ばりに挨拶に厳しい芸能界に入ったものですから、挨拶をする習慣が身体に染み付いています。そんなボクがオンラインのイベントで、参加者に「お疲れさまです!」と挨拶したら「あ、はい…」と返してくるメンバーがいます。そんなことをされると、ボクはその人にはもう話しかけません。だって次に話しかけてもまた「あっ、はい…」みたいな感じで返されるかもしれないから。それは恐怖でしかないんです。(中略)

挨拶って結局のところ「あなたのことを受け入れますよ」って合図じゃないですか。それを積極的にやっている人は、どんどん話しかけられるので周囲の情報が次々にどんどん入ってきます。そうすると、思考の選択肢の幅が広がって、新しいチャレンジができるんです。つまり結論は、挨拶をしないと話しかけられる回数が減って、情報が偏って損をするので、挨拶はしたほうがいいよ!ということです。(「西野亮廣エンタメ研究所」より)

挨拶の語源を調べてみると、仏教用語の「一挨一拶（いちあいいつさつ）」からきており、「挨」は心を開いて近付く、「拶」も同様に迫るという意味があります。このことから、自分の心を開いて相手の心に近付き、「あなたのことを受け入れますよ」という考えにつながる訳です。挨拶をされれば返すけど、自分からはしないと言うのは、心が開いていなくて、相手を見捨てているのと同じかも知れません。一人一人が心を開いてお互いを認め合い、挨拶をする相手に対して心から「おはようございます」と挨拶することで、お互いに気持ちのよい一日が始められると考えます。

前期後半は短い期間ですが、フレンド活動、陸上練習、げんきキャンプとたくさんの活動があります。今後ともこれまで同様、ご家庭や地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。